

☆最近、民営化推進の方向から、公共施設の運営を民間会社に委託するケースが増えています。

民間の運営ノウハウを活用し、サービスの質を向上させることが本来の目的なのですが、実態は人件費など管理委託費の削減ばかりが目立ち、それをパート・アルバイトの採用で切り抜けているところが大半です。

実感無き日本経済の拡大や行政改革の成果が、お手軽・ご都合主義の所産でなければいいのですが…。

☆次回の「標本欄」はデジカメによる写真展です。どしどしご応募下さい。

APEX

CLUB

アペックス産業株式会社

‘06/11

第22号

『APEX CLUB』

発行 2006年11月1日(通算22号)

発行所 アペックス産業(株)「APEX CLUB」編集委員会

〒105-0014 東京都港区芝2-23-4

電話 03-3455-6474 FAX 03-3455-6558

ホームページ <http://www.apex-sangyo.co.jp>

発行人 元木 貢 (編集委員)山口力広、高塚章夫

佐々木健

(事務局)田口久美

ギャラリー

ジャワ島中部地震

其田 益成

(写真家)

一九六三年青森県生まれ。大学卒業後、写真館、広告代理店の写真部などを経て、一九九〇年に独立。ライフワークで熱帯病を取材。アジア、アフリカ、中南米などの熱帯地域十四カ国でのデング熱、オシロコセルカ症、シャーガス病、住血吸虫症等々の寄生虫症、感染症の現状を雑誌等に発表している。



地震で倒壊した村の一つに、私は二回訪れている。それも、地震発生の三週間前に。従って、今回は取材というよりも、ボランティアで入った。私が現地入りしたのは地震発生から既に一週間を経過していたので、死者や怪我人の搬出は既にどの村も終えていた。ただ、物資は足りないままだった。後から知ったが、私がまだテントが足りない、薬が足りないといと走り回っていた頃、日本では報道がほとんどなくなり、ワールドカップで盛り上がっていたという。

大手雑誌編集者と会う機会があったので、報道が消えた点を尋ねると「日本人が死んでいないから」というのが理由だそう。確かに日本人が死んだアチエ津波の時には、うんざりするくらい長かった。

地震被害の本質は、直後の人的被害ではない。数ヶ月してから現れる経済的被害が重要なのだ。途上国では、それを放置すれば人身売買、臓器売買に繋がりがかねないからだ。本質を見誤ってはならない。

むし籠

当社敷地は歴史の名所

当社敷地の地主である西應寺は江戸八百八町の一つ西應寺町と呼ばれていた。

寺の記録をひも解くと正慶(しよ)うけい二年(一三三三年)五月二十二日、鎌倉幕府の十四代執権北条高時(ほうじょう)うたかときが新田義貞との戦いで敗れ自刃、その末娘、時姫が落ち延びて武蔵国豊嶋郡芝金杉村(現在地)に西應寺を建立したという。天正十八年(一五九〇年)、徳川家康が江戸に入った際、馬を休めた場所でもある。

江戸時代になると家康公は寺領十石を寄進、歴代将軍により庇護された。安政五年(一八五八年)、時の大老井伊直弼によって米欧五カ国と通商条約が結ばれ、オランダ公使館が境内に置かれた。

隣接する薩摩藩邸焼き討ち、関東大震災、第二次大戦と三度の焼失を乗り越え現在に至っている。

NEC本社 長谷工本社を隣に西應寺の春のたけなま

乗ったら止まるな、駐禁場所!

違法駐車を一掃するため二〇〇六年六月から、道路交通法の一部が改正され、駐車監視員の資格を取得した民間人が駐車違反を取り締まることが出来るようになった。

これにより違法駐車は駐車監視員により、福祉車両など対象除外の手續きを受けていない車両は一発アウト。まったく猶予が無くなった。

おかげで主要幹線や市街地での違法車両は減少傾向にあるが、まだまだ違法駐車も目に付く。

理由の一つに駐車場が確保されていない問題があり、公共交通機関の利用をいっても、業務上車の使用が不可避なこともある。当社でもとうとう交通反則告知書(いわゆる反則切符)を貼られた社員が出た。

会社とは目と鼻の先で、車からわずかに数分離れただけの僅かな時間だったのだが…。

私は今二つの交通標語を肝に銘じている。乗ったら飲むな、飲んだら乗るな! 乗ったら止まるな、駐禁場所!

おじやま虫

Q & A

ネズミに関するお問い合わせ

Q 我が家で数ヶ月前からネズミが出始めたので、薬局で殺鼠剤や粘着型のトラップを買って置いていますがちっとも効果がありません。どうしたらよいでしょうか?

(東京都港区在住の主婦)

A 港区の町内会でネズミのアンケートを数年前に実施したところ、「現在出ている」が19%、「この一、二年出ている」を加えると約40%に上りました。

そのほとんどがクマネズミでした。クマネズミは警戒心が強くなかなか毒餌を食べないばかりか、粘着トラップを少し置いたぐらいではかっつけてくれません。

当社の実験では、七十二日間毒餌



食糧物は冷蔵庫か密閉できる容器に入れて保管する、家の周囲を整理して巣にさせないこと、ドックフードや鳥の餌、庭に落ちた果樹を撤去すること。殺鼠剤は遅効性のワルファリンかジフェチアロール(商品名デスマオブロー)がお勧めです。

食べない場合にはすりつぶして、ドッグフードやサツマイモなどに塗すといくべ易くなります。粘着トラップは出入りしている通路にできるだけ多く置くことです。

虫めがね

感染症とPCO

平成十六年一月に山口で、二月に大分そして京都と続いて高病原性鳥インフルエンザが発生しました。

京都では消毒作業に千名に及ぶ協会員が出動しました。さらに翌十七年六月には茨城県で発生、次々に飛び火して発生は十九農場に及び、茨城県協会長の陣頭指揮のもと会員十三社が県に協力、終息宣言が出た翌年二月二日まで正月返上でほぼ七ヶ月にわたって、朝六時から夜八時まで十二時間労働で二千八百名が出動したとのことです。

たまたま茨城県協会会長は本部協会の技術委員で感染症対策を担当していました。平成十三年には専門家の指導のもとに感染症対応マニュアルを編集・出版、各都道府県協会に感染症予防衛生隊を組織し、その指導者を育成する目的で感染症対策指導者講習会を毎年開催、各地方行政との連携強化を呼びかけてきました。

折しも、高病原性鳥インフルエンザ対応マニュアル編集集中に起きた出来事で、過去の山口、大分、京都の経験が大いに活かされたとのこと。

茨城県でも発生の前年、平成十六年には鳥インフルエンザ実施マニュアルを策定し、組織の整備、模擬演習まで行って万全の体制を敷いていたのは見事でした。平成十一年に制定された感染症法の趣旨にある事前対応が見事な成果を上げた訳です。そうは言っても、県職員やPCO協会メンバーの方々のご苦労は並大抵ではなかったことと敬服する次第です。

さて、アメリカでは今、ウエストナイル熱が流行し、今年もアラスカとハワイを除く四十八州で患者及びウイルスが確認されており、日本にいつ上陸するか予断が許されない状況にあります。

各都道府県でも体制を整えているところですが、事が起こってから動き出す日本の行政がどこまで変われるか注目したいところです。

(貢)